



# JCLIFE

2022年  
9月号

JCI 一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F  
TEL:0848-20-1110 FAX:0848-20-1112 E-mail:ojc@urban.ne.jp Facebook:<http://www.facebook.com/isojcnw>

## 8月例会・定時総会

8月21日(日)、尾道商工会議所大会議室にて8月例会・定時総会が開催されました。総会では第4号議案において2023年度理事長予定者に吉田雄太君が推挙され、全員の賛成をもって承認可決されました。

次に第2号議案において2023年度監事数及び理事数が上程され、監事2名、理事長予定者含む理事18名が全員の賛成により承認可決されました。そして第3号議案において2023年度監事予定者に歌一行君及び大西貴明君が推薦され、全員の賛成をもって承認可決されました。続いて理事選挙が行われ、厳正なる開票の結果、理事予定者18名が選出されました。次年度監事・理事の皆様、本当におめでとうございます。(記事：森川陵)



## 2023年度理事 (18名)

|  |   |   |   |   |  |   |   |  |
|--|---|---|---|---|--|---|---|--|
| <br>沼尾 一君<br>(重任)  | <br>高橋 建太君<br>(重任) | <br>高垣 裕吉君<br>(新任) | <br>小林 暢玄君<br>(新任) | <br>亀田 康寿君<br>(新任) | <br>加藤 雅崇君<br>(重任) | <br>岡本 大輔君<br>(新任) | <br>安保 大輔君<br>(新任) | <br>吉田 雄太君<br>(理事長) |
| <br>吉田 嵩正君<br>(新任) | <br>山本 恭平君<br>(新任) | <br>村上 康君<br>(重任)  | <br>村上 直弘君<br>(重任) | <br>松本 裕太君<br>(新任) | <br>藤田 祐輔君<br>(新任) | <br>平岡 良之君<br>(重任) | <br>半田 祐喜君<br>(重任) | <br>沼田 剛志君<br>(新任)  |

## 2023年度監事 (2名)



歌 一行君



大西 貴明君

(50音順)





共創まちづくり委員会の平岡です。当委員会では先日行われました夏期講習を担当させて頂き、今年は尾道ふれあいの里にて夏の大人の大会を行いました。ここ数年、コロナ禍の影響で夏期講習も行うことができておりませんでした。夏期講習のみならず



ず会員交流の場が少なくなつたことを踏まえ、チーム分けを入会年度で分けることで委員会の垣根を越え、大人がムキになってチームの勝利に向けて各競技を行うといった趣旨のもと、屋外で感染症対策万全な状態で終えることができました。参加頂いたメンバーの方々から久々に腹から笑ったなど、賛辞のお声を頂きました。当委員会は残すところ事業のみとなりました。引き続きご協力の程、宜しく御願い申し上げます。

(記事：共創まちづくり委員会 委員長 平岡良之)



# 卒業生スピーチ



皆様お疲れ様です。岩井です。よろしくお願いたします。まず、入会のきっかけからお話させていただきます。

多くの皆さんがそうだと思いますが、入会のお誘いをいただいて数ヶ月から数年後、入会を決めたという方が多いのではないかと思います。実は私は1分で決まりました。

平成29年7月よく覚えています。7月つてもう仮入会員ギリギリの月だと思っただけ、内海洋平君から連絡をいただいて、「ちよと今日夜、飲みに行こうよ」と「おええよ」と、2つ返事、軽い気持ちで尾道のJ-I-W-A-Tで集合ということで、その日行きました。店内に入ると小林輝久先輩、麻生先輩、内海洋平君がいらっしゃいました。その時にJ-Cについて話がリンクしなくて何だろうと思っただけです。なんでこの方々がいらっしゃるのだろう。その席で入会のお話をいただきました。考える暇なく2つ返事で「はい」と答えました。帰ってから少し考え、その次の日にやっぱり断りたくて、もうどうしようかなと。で、内海洋平君に電話しました。「お前、騙したお前、ちよと先に言っとけや」というふうな咎めなんですけど、私自身この平成29年7月つていうのが今の会社の立ち上げ時期だったので、お金もなければ売り上げもないし、時間もないし、すごく不安でどうしようかなと思っただけで、帰って妻にももちろん相談して。で妻に言うとも、ものすごくその当時青年会議所に対してイメージがあまり良くなかつたんですね。で、もちろん反対されました。まあ、もうしょうがないと、私サラリーマンです。で最後に、会社の社長に「どうしましょう、もうこういふことになりましたけど」社長は「まあ、尾道で事業やっていくにはこちの縁で大事だからいんじゃない」と。まじか。で、「じゃあ、入会します」というきつかけでした。それで、妻の気持ちはまだ、すごく反対して、そこをどう乗り切ろうかなとか、私は妻の顔を見ながら、その時はJ-C活動を参加してありました。である日、私は、妻のJ-Cに対する悪いイメージにまた火に油を注ぐような事件を起こしてしまいます。私元々J-Cに入る前は禁煙

しておりました。仮入会員の年に夏期講習があつて、そこである先輩からタバコをいただきました。そしてそこからちよと吸うようになりました。もちろん妻には黙ってです。そこから数ヶ月後、確か60周年事業の時に、尾道駅前広場で仮入会員が何か役割を与えられてそばを提供するみたいな事業がありました。その際ちょうどそのブースの隣にI-Q-O-Sさんがブース出されていました。

ここで、その時手持ちの現金がないなということ、支払おうかなと思つたんですけど、カードだったら履歴と明細が残っちゃうのでどうしようかなと思つたんですけど、横に藤田君がいたんで「ちよと立て替え」ということでI-Q-O-Sを購入しました。私はそこから晴れて妻に隠れてI-Q-O-S生活という日々が続きました。なんですけど、やっぱりバレちゃうんですけど、I-Q-O-S購入して約2か月後のことですよ。なんでタバコはまた吸いてるの、あんた」と問い詰めて「いやちよとJ-Cで、この前J-Cで」という風にならね。よりこれでJ-Cに対する悪いイメージが奥さんの中では大きくなつていきました。

翌年です。総務広報委員会。この時、コロナがすごく流行りだして。ドラクエウォークのイメージがなくなつてですね。ドラクエウォークしてないメンバーに入れられないみたいな雰囲気がありました。で、私はそこでめっちゃくちゃハマりました。結局私はそこで課金マスターという称号いただきました。その年、またブロック出向しまして、その時は村橋委員長の幹事として出向いたしました。この時はマスターの称号は得られませんでした。が、ホントに今、他LOMの方とかとご飯を行つたりとか、仕事上での付き合いっていうのもあつてすごく感謝しております。

翌年、去年ですね。高田昌広さんが委員長の時にも教育系の委員会で私配属になつて、私またアウトドアは得意なんで、テザートを作つたんです。その時にまた称号いただきました。ありがとうございます。で、最後に今年。今年も、半田委員長のところの教育系の委員会なんですけど、家族会で、またアウトドアですよ。私またここで拝命いただきました。竹マスターです。ありがとうございます。



で、仮入会委員の時の1年を除いて約5年間のうちに3度教育系の委員会をしてるんですね。すごく私なりに勉強になったと思ってます。

この教育系の事業ということについてほんとに親御さんの気持ちだったりとか、子供との話し方の接し方っていうのは大変学びになったし、しかも私障害福祉の仕事をしておりますのですごく勉強になったと思っております。

最後に私は理事を1度もしておりません。そんな私でも、私の強みを生かしてくれたりとか、役割をくれたりとか、あとはマスターという風に言ってくれたりとか、私の居場所を作ってくれたこと、すごく皆さんに感謝しております。

ぜひ、皆さんには皆さんのキャラクター、個性を十分に生かせるような形で今後のJIC生活を送っていただきたいと思えます。短いですが卒業生スピーチとさせていただきます。



犬本 誠

皆さんこんにちは。まさか、自分がこの場に立つ日がくるとは思っていませんでした。

入会のきっかけは、幡中先輩に熱心に誘っていただき、3回目のお誘いの際に、あのまっすぐな眼差しにおされ入会しました。入会当時は、事務所を独立したばかりで委員会や例会ほとんど出席もできず当時の委員長には大変ご迷惑をおかけしました。当時何年も辞めようと思いましたが言い出せなまま1年が経過しました。2年目の中司さんの委員会にメンバーは若手が多く、少しずつ例会や事業に参加しはじめました。

この時に、副委員長の島田元太さんがよく話しかけてくれたり、仕事を少しずつ振ってくれたりと中司委員長が日の届かないところをしつかりフォローして委員会を陰で支えていた印象です。ここで少し青年会議所というものが面白くなっていったような気がします。

2017年工藤員委員会で、委員長長の工藤さんがとても情熱的な方で、その熱量で委員会メンバーを巻き込み、前人未到の12か月連続100%例会出席という偉業を成し遂げられました。委員長として弱みを見せず、時には強引なところもありましたが、またまた自分に青年会議所の面白さを教えていただいた委員会でした。

2018年中島委員会では、逃亡犯や豪雨の影響でほぼ何もできなかった委員会ですが、メンバーには麻生先輩、美ノ先輩がおられました。

飲み会だけは、よくしていたような印象です。ここではみんなで飲むことの大切さを学びました。青年会議所生活で忘れられないのが委員長をした2019年です。この時は苦しかったことしか覚えてなく、とにかく1年は委員長という役を演じていくことで、副委員長の高橋建太さんと一緒に、寺をテーマに1年間ずーっと。よく手法からはいると言われますが、すぐに手法からはいるのが私のスタイルなので、なぜ寺なんですか？と言われたらまだにわかりません。みんなの心の中の寺にも一度問いかけてください。この時に経験したのが、自分の居場所ができた、友達仲間ができたなど感じました。悩みがあれば先輩や同期、同僚の委員長たちと飲みに行つて相談して、みんな飲んで、商工会議所の近くの海辺でストロング片手に語り合ったり、カラオケでの優しい貴臣さんがマイクを投げつけてくれたり、DADA DADA大脱出の名前考えたり、事業も例会も、もちろん大事だったんですけど、困っていたら助ける、あの人がするんだつたら参加しようか助けようとか、この時期に大事なことをたくさん学んだような気がします。最後の事業、浄土寺さんで事業させてもらったとき、感じたことが1つあります。

やっぱり尾道青年会議所のメンバーについていなく、協力してもらっていただけです。当日は自分たちで考えて臨機応変に対応してくれて、普段言うことをきかない、酒ばかり飲んでるメンバーにスイッチが入るとこんなにも頼もしい存在になるんだとそれを委員長として動かせるって、小さい会社を経営している自分もこれってすごい気持ちいい瞬間だったのを今でも覚えているし、それをこれから理事する人、目指す人にもぜひその感覚を味わってもらいたいと思います。事業が終わったら泣くことを、加藤雄大くんのころから、『かとり』で言うてたんですが、その日はさすがにかとるかなって思ったんですが、時の安楽城副理事長がカトリアで、代わりにかつとっておいて私はそんなに心配をかけていたんだなとどうもありがとうございました。大変お世話になりました。

副委員長をした、2020年小川委員会では委員長の小川さんが優秀な方で本当に楽をさせていたような気がします。メンバーにも恵まれて、コロナ1年目を何で自分たちができるのか、本当に活動をしていけるのか葛藤した1年だったように思います。理事権のあるメンバーはすべて選挙で当選するというのもうれい瞬間も味わいました。なぜか、小川さんは私に私にじめられていた今も言ってますがそのような気はまったくございませんでした。

また、この時の、副委員長の皆様には大変お世話になりました。けご、おまま、ともも、おみみ、ちよげいもありがとうございます。いつかYDも含めて旅行でもいきたいと思います。

2021年フロアメンバーとしてゆつくりできるかなと思つた小西委員会でしたがなかなか色々仕事振られゆつくりできなかった印象です。ここでは、初めて後輩らしい後輩ができたかなと思えます。松本君、亀田君、次年度委員長おめでとうございます。これから辛いこともあると思いますが頑張ってください。

やっと2022年、半田委員会まで卒業を迎えられます。卒業生としての扱いはしてただけで、本当にありがとうございます。残り例会、事業と続きまして、最後に、みなさんにお伝えしたいことが何点かあります。

最後に、みなさんにお伝えしたいことが何点かあります。事業は手法からはいらない。委員会メンバーもそういった委員長がいまさら是非注意してあげてください。綿菓子ももうかる。緑地帯で事業する際は是非綿菓子フランクフルトは鉄板です。お菓子のつかみどりはやめました。8万円旅行は参加しますが、色々な体験ができていきます。あとは、困っている人がいたら助けてあげてください。新入会員に話しかけるとか、なんでもいいです。事業に参加するだけじゃなくて、委員会にだけじゃなくて、ラインの返信してあげるだけで委員長は安心します。例会上に瞬だけでくても委員長喜びます。ぜひ、どんな形でもいいので困っている人がいたら手を差し伸べてあげてください。理事長に恥をかかすな。自分が理事メンバーになったとき、委員長になったときは先輩から常に言われていた言葉です。委員長になったら好きに言えることか言えますけど、大前提に理事長に恥をかかせぬよう行動していただけたらと思います。自分もたくさん、副理事長、理事長、専務、事務局長にケツ拭いてもらってききました。なので今年度も次年度以降も最後は理事長がケツ拭いてくれるので、つかいごとたくさんしてください。

本当に9年間お世話になりました。残りの期間もどうぞよろしくお願いたします。残り期間以上で卒業生スピーチとさせていただきます。



川崎 耕平

2012年度に入会。当時の拡大委員長は、馬原さんで、我々は馬原チルドレンでした。

コロナで今はしていないですが、数人程度で年1回程度の定期的な同期会をして

ますね。良い同期です。2013年度は、美ノ上委員長の拡大研修委員会に、大西君と一緒に幹事で配属この年は、本当に濃い1年でした。

歴代、この委員会に配属された先輩方は、スピーチでお話されましたが、委員会旅行でのシンガポール、タイの約2週間の旅。本当に濃密な2週間でした。この委員会ですごくいいなって思ったのは、OFFとONの切り替えがすごいこと。JICって海外に旅行にいったりするんだなって思っていました。昔はそうだったみたいですが、近年ではこの委員会だけ。遊ぶ時はどの委員会よりも遊ぶ。やる時は徹底的にやることを常に実施されていきました。その代表例が、安楽城さんが当時委員長で、夏期講習を大山ですることがあります。美ノ上委員長は、あえて、前日から鳥取市内に入り、朝まで飲む。帰れません。登山の前日ですよ？それでも、翌朝の登山事業では、どの委員会よりも一番に山頂まで行く。誰も文句がいえませんよね？そばで見ながら、すこいかなって思いましたね。そんな委員会ですから、参加率も多くなるわけです。私は入会間もない、生意気な若造で、先輩に迷惑をおかけし、叱咤激励を頂きながら、本当に楽しかったですね。もう一つが福山で行われた国際アカデミーへの参加。詳しいことは省略しますが、世界各国からJICのメンバーと、日本全国のJICメンバーが一同に福山に集まり、一緒に釜の飯を食べる。色んな意味で1週間大変刺激的かつ濃厚な1週間でした。

まあ、機会があったら、行ってみたいです。その翌年、セクレタリーですね。当時は安部理事長、佐藤専務(当時で、吉原敏兼さんが理事セク、元太君と私が同期セクでした。この年度は、セクで飲めないで、当時の安部理事長が気を使っていたので、沢山おいしいものを食べさせていただきました。焼肉、バー、からの鮎、そこからラーメン？みたいな食の暴力と呼んでおりました。まあ、冗談はさておいて、ヒトのカバンを持つ、送迎をする、出張や会議を設営する秘書のような役割で、当初はとまどいも沢山ありましたが、先輩方には教えて頂き、また和気あいあいとした楽しい事務局でありましたし、特に、同期セクの元太君の存在は大きかったですね。

その翌年、ここが私のJICライフでも一番頑張った年でした。12年ぶりのブロック大会を尾道で開催するというところで、実行委員会の副実行委員長として配属されました。12年前の先輩の当時の話を聞きに行くと、千光寺に舞台を設置して、そこで懇親会をしたということ。



それ以上のことをしなないと、悩んでいると、当時、サイクリングのイベントなんかで、台船を使っておき、これをヒントに海の上で大懇親会をやるようになってたんですよ。公的の目的ではなく、私的に海に台船を浮かべ、大懇親会をやることで、海上保安に何ども谷原さんにも協力していただき、許可がとれましたが、これで終わりではない。台船で大変なんですよ。陸から単純に台船に乗れないんですよ。それを当時、委員会メンバーであった美ノ上さんが、当時JCMメンバーで関連のある青山さんを中心の方々を集めて頂き、橋を造るわけですね。それだけではなく、当日に公会堂から、緑地帯でのたからいち、そして台船での大懇親会を全て設営及び片付けをするわけです。当時の委員会メンバーである、実行委員長の太田さん、副委員長の山北さん、幹事である、高升君、そして高橋洋樹さんにおいては、年上でしたが、色々と無茶難題をお願いし、パワハラを受けたと言われたけど、本当に助けてもらいました。

同期は中谷さん、巻幡さん、森川陵くん。そして、自由人の片岡さん、武也さん、横原さんは、卒業予定者でしたが、積極的に参加してらっしゃる先ほども述べた、谷原さん、美ノ上さんには大変御世話になりましたね。また、当日まで、当時のLOMメンバーの方々には大変御世話になりました。でも、意地でした。他のLOMよりもよい物を作った。ってね。本当に尾道JCMの底力を感じた事業でした。司会にサブライズで、山本モナにしてもらって、懇親会では、広島県にお願ひして事務所の社長を紹介してもらい、アングラズを呼んで、腕相撲大会をしました。当時のブロックの担当委員長は、今年の庄原のますもと理事長で、何ども庄原と尾道を往復して話をし、やり切ったことで、二人で終了後感極まって泣いたことを思い出します。この年度感じたのは、

①尾道JCMメンバーが一致団結すれば、まあなんでもできるということ。  
②それが、それぞれ企業や外部団体で中核にいらっしゃる方々の集まりなわけですから、本気だせば失敗することなんかありませんね。ただ、これ

できないのが、

②委員会組織は、会社や他団体の組織のように、利害関係はないんですよ。なので、その人を動いてもらうためには、熱量をどれだけもって、先頭に立って、汗を流すか。

③明確なビジョンと方向性が必要で、委員会メンバーが納得してもらって動いてもらうように導かないといけないんですよ。そのためには、納得できるエビデンスとなる調査や分析が必要だということ。

④旅行や食事会をして、交流を図る。そして、大事なのが

⑤後継者を育成すること  
これができれば、あとは副理事長や副委員長が骨を拾ってくれますよ。そうしないとなかなかメンバーは参加してくれない。これは本当に勉強になりました。

2023年度の理事の方々が決まりました。まずはおめでとございます。理事の方でも来年度、委員長になられる方は、自分に厳しさをもち、失敗しても良いって言われますが、失敗から学ぶことが出来なければ、次に委員長になるであろう理事候補者にとつて、また自分自身も副委員長や副理事長として上にあがる際にも的確なアドバイスができないと思います。そんなことを念頭に置いて、1年4か月頑張ってください。

そして、大事なのが、弱音や言い訳を委員会メンバー、特に若いメンバーの前でみせるのではなく、カッコよい委員長を後継者にのせてあげてください。

自分もこんな委員長になりたい、自主的にかつ意欲的に理事(委員長)になりたい、つてなれば、強いLOMですよ。私は、本当に委員会メンバーに恵まれ、濃い人たちがかりでしたが、支えて頂いた1年でした。

特に太田先輩、副委員長の山北先輩には、頭が上がりません。ここでやりきったことで、少し燃え尽きてしまいましたが、そのあとは、

成司委員会の総務広報委員会副委員長、宮地委員会のフロアメンバーとして、あまり参加できていなかったです。2018年に専務理事、安本理事長

の年色々あった年でした。

4月に今治からわざわざ尾道まで脱走犯が泳いでくるわ、7月には、西日本豪雨が発生し、まさに尾道で被害がでてると思ってもみませんでした。約2週間の断水にもなり、会全体がギリギリの状態が続きましたね。この時に感じたのは、JCMの目的である明るい豊かな社会の実現について、自分たちの環境が整わないと、出来るわけではないって感じた。JCMに限界を感じました。9月末まで、災害対策に追われ専務として、もつとできたらじゃないかなって後悔することも多かったですが、追われることが前半まで多く、本当に大変な年でした。この時の理事のメンバーには申し訳なかつたです。でもこの年の事務局は本当に素敵なメンバーでした。

元くん、政成さん、雄大くん、暢玄さん、そして大前さん。皆で支えあ、何とか乗り切れたと思います。また、この時、西日本豪雨は県全体を広く被る被害があり、どの専務もみんな9月ごろまで対応に追われていたので、専務会で韓国へ慰労旅行にいったことは良い思い出ですね。当時、同日に理事長会が居酒屋であった、専務が韓国に遊びに行っていることとさわつていたみたいですが、まあそれだけ専務は大変だったということですね。

その翌年は、副理事長として、JCM運動推進室、総務は、岡田貴くん、拡大は、暢玄さんでした。二人とも言うことではないくらい、委員長として会を運営と事業の遂行してもらいましたが、年度をスタートする前に、2つだけお願いしました。それは、

①総務も、拡大もやるのが決まっているので、自分たちのカラーを出す場所が少ないこと。  
それは、例会しかない。なので、例会は公開例会にしてほしい(大きいことをやってほしい)

②必ず、定期的なMTをしたいこと。  
上程や委員会前には必ず副委員長と3人でMTをすること。自分がOKだったものは、必ず正副理事会では100%通すので、この2点だけお願いをしました。本当に2人とも頑張ってくれました。そのあとは、また若干スリープに入り

ました。(高山さん、吉田くんすみません)

子供が生まれた年でもあり、私は出張や会費が多いですから、出来るだけ空ける時間は、子供や妻のそばにいたいこともあり、なかなか出にくかったですね。また、新型コロナウイルスも流行しており、余計そのような環境に自分自身が落ち着いた感じがします。

そして、今年度は村上委員会に配属。委員会メンバーの殆どが一緒に携わった人たちがばかりであり、温かく迎え入れて頂き、楽しかった最後のJCMライフを過ごさせてもらってます。

この委員会メンバーについては、まだあと4か月ありますし、事業も例会もあるの、改めて会の皆様にはお礼を言いたいと思います。いつのまにか30代の全てをこのJCMという会に入らせていただき、振り返ると、「もうこの時はこうしとけばな」というような後悔することだけは沢山あります。でも別にこれは、JCMだけではありません。20、30代はプライベートでも、仕事でも、大きく変化するのはこの年代だと思っんです。

そんな貴重な時間を皆さんどのように使うのかよく、地域社会において、JCMもある時代だということですが、私は、自分の人生において、JCMもある時代になつてきていると思います。特に新型コロナ禍でそれはより加速したと思います。冗談で、冒頭に国際アカデミーの話をしたんですが、JCMって今ほとんども活躍できるようなつてます。ビジネスの機会も含まれました。

私の取引先で、小さいLOMで二次生産者だけ、JCMに入つて、六次化事業を拡大し、来年度は日本JCMの副会長とするようなつてもいいんですよ。

皆さんにとつて、貴重な40歳までの一番大事な期間を、どのようにJCMという限られたコミュニティのなかで、何を不得、何を学ぶのか、よく考えながら、後悔のない、密なJCMライフを楽しんでください。長々とになりましたが、ここまで支えて頂きました先輩として、皆さん、本当に有難うございました。

もう4か月ありますが、宜しくお願ひします。

みなさまこんにちは。まだまだ暑いですが、せじつ、次年度理事の選挙も無事終わって新たな理事がきました。一つ、エールを新理事にお送りしたいと思います。笑う時もあればげんきなくなって泣くことだってあるかもしれない。げんきがなくなると気が滅入ることもある、そんなときにはもやもやしたっていいと思う。ただ、だめな時こそ思い切ってやっちゃろう!! もうしあげておいてふと思ひました。まずお前の方がやれよと思った方、連絡お待ちしてます。(記事:山本 圭介)

**65周年記念事業告知**


この数年の間、パンデミック、戦争、インフレなど予想もできなかった不安定な状況が続いています。「こんな中でも尾道とともに前を向きたい」という思いから、65周年記念事業として「星に願いを」を実施いたします。

まちの皆様から集めた願い事を載せ、尾道水道に星が走るといふ、初の試みを実施します。

是非、貴方の願い事をご投稿の上、記念事業に足をお運びください。

(記事:65周年実行特別委員会 加藤 雅崇)

事業内容詳細 [公式LINE](#)



**編集後記**

HP [facebook](#)

